

長野県北西部地震(M6.7)現地見学会へのお誘い



山梨県地質調査事業協同組合
理事長 萩原 利男

見学会責任者、田邊政貴、保坂勉、松田丞司

鬼怒川決壊!考えもしなかった常総市の水災。

「災害は忘れた頃にやってくる」とは物理学者・寺田寅彦博士の言とされている。安全で・安心な暮らしを手に入れた今だからこそ、まさかという思いでテレビ報道にくぎ付けとなった。地震、火山噴火、また大雨による洪水にしても人類が地球に住みつく前から繰り返し起きてきた現象の一つにすぎない。

東北地方太平洋沖地震は、「世界で近年起きた大地震としては最大級の地震であったが、日本史上初でも、想定できないような地震でもなかった」と言える。いつ起きてもおかしくないと言われ続けている「南海トラフ地震」の発生が叫ばれている。県内では、幸いにして津波の心配はないものの大きな地震動災害が懸念されている。

2014年11月22日に長野県北西部で発生したM6.7の地震で大きな被害が生じた白馬村堀之内地区を中心に、信州大学震動調査グループのご協力を得て、現地見学会を行うことになりました。

同グループは地震発生の日から現地調査を開始し、現在も継続中です。どのような地形・地質の地域が地震動の影響を受けやすいのかを明らかにしています。

現地見学ならびに震動調査グループの取り組みを紹介して頂き、今後の地域防災・減災対策に生かせればと思っています。「地域の特徴を正しく知る」こと、「地域の住民が地域を守る意識を高める」ためにも、一人でも多くの皆様方のご参加をお待ちしています。

日 時：10月24日(土) 集合・出発：7時

集合場所：株式会社 萩原ボーリング駐車場

行 程：10時・・・白馬村堀之内(地震による住宅被害の集中した所)

14時ごろまで地震断層を始め何カ所か現場見学

16時まで大町山岳博物館でグループの活動・取り組みをご紹介

解散予定：19時

案 内 者：信州大学震動調査グループ、宮沢洋介(北洋建設(株))・山浦直人
(株)千代田コンサルタント)・小坂共栄(信州大学山岳科学研究所)

参 加 費：1人 3,000円

連 絡 先：山梨県地質調査事業協同組合(必ず連絡してください)

F A X：055-243-0851 E-Mail:t.ono@hagibor.co.jp